

直接目的02

子どもの将来進む道の選択肢が増え、力が発揮できる

希望する仕事に就いている人の割合

希望する保育所、幼稚園、こども園、学校に通っている子どもの割合

人材確保（先生、ボランティア等）

0201
子どもが、様々な体験ができる環境が整っている

建物がバリアフリーになっている
施設の使用要件をなくす
発達に課題のある我が子が安心して遊べる場がありますか
経済的に負担がなく、体験できる環境

本人（当事者）の得意なことを見つけてくれる場所があるか
得意なことが出来る場、得意なことを伸ばしてくれる場がある
苦手なことを指導（療育）してくれる場がある

集団生活ができる（遊ぶ）場がある

障がいのある子どもの子育てを、保護者が周囲に相談できる環境を整える

友人関係を築いたり、お互いに悩みを打ち明けたりする場（たまり場支援）がある

様々な体験ができる環境を知る機会（情報）がある

障がいがあっても地域で活動できる習い事（サークル）の場がある（箇所数）→職業選択や余暇の幅を広げることにもつながる児童期の体験を

市内の特別支援学校や特別支援学級の行事に参加したことがありますか

母子分離や家庭分離等、親元を離れ勉強する機会（合宿、宿泊体験）がある（GH、ショートステイの箇所数）

特別支援学校や特別支援学級に体験する機会がありますか

0202
子どもが、自分に自信を持って将来を展望できる

近所（地域）に障がいを理解してもらい、将来のモデルになる大人の存在を増やす

幼少期に個人を受容し理解してもらえる場や環境を増やす

太線枠（色つき）：ロジック・モデルの文言
細線枠：今回のワークショップでの

0203
子どもが、将来力を発揮できる場所がある

職場体験や福祉事業所の体験の学習を、在学中にたくさん経験できたと思いますか	将来の「働く」イメージを持つ機会がある（障がい者雇用の企業見学や体験実習の実施件数）
家以外での居場所がある	企業就労を選択しない方の日中活動の受け皿がある（設置数）
家以外の居場所があることを社会が受け止めてくれる	働くことで、できるだけ高い工賃を得ることができる（市内B型事業所の平均工賃支給額、習志野市の障がい者優先調達推進法の実績等）→余暇の幅や、地域生活の選択肢が増える
「働くこと」は、お給料をもらうこと以外にもあると社会が認める	

障がい者を雇用する企業が増える 活躍する場が増える	障がい者を雇用する企業数（採用者数）
障がいについてきちんと理解してくれる会社が増える	企業就労を支える（働き続けるための）支援がある（障害者就業・生活支援センターの登録者数）
就労前の訓練を受けられる場所が増えるとよい	職業訓練を実施する就労移行支援事業所がある（設置数）
障がいをきちんと理解した上で、指導してくれる場所がある	
障がい者をサポートしてくれる団体やボランティアが増える	展覧会やスポーツ大会等、これまで継続してきた取り組みを披露したり、意欲をつなげたりする機会がある

